

令和6年度 聴覚障がい児支援中核機能 事業の取組について



神奈川県障害福祉課

聴覚障がい児支援中核機能事業の構成

- 1 聴覚障害児に対応する協議会の設置
- 2 聴覚障害児支援の関係機関との連携
- 3 家族支援の実施
- 4 巡回支援の実施
- 5 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施



1 聴覚障害児に対する協議会の設置

聴覚障がい児及びその家族に対し、早期から必要な支援を切れ目なく提供できるよう、各分野の関係機関等が連携した支援体制を整備し、早期支援を推進するため、「神奈川県聴覚障がい児早期支援体制整備推進協議会」を設置している。

【今年度の開催状況】

第1回（7月12日開催） 議題：令和6年度聴覚障がい児支援中核機能事業の実施計画について

第2回（3月19日開催） 議題：令和6年度聴覚障がい児支援中核機能事業の取組について

2 聴覚障害児支援の関係機関との連携

医療・保健と切れ目なく連携しつつ、既存機関との連携を強化し、聴覚障害児の乳児からの対応を強化する。

(1) 市町村

(2) 医療機関

(3) ろう学校



(1) 市町村

療育担当部署に連絡をして、中核機能が設置されたこと、家族教室等の事業の紹介などを行う。また、課題等についても情報交換し、顔の見える関係づくりを目指して順次訪問中。

[訪問実績]

- ・逗子市、鎌倉市、小田原市、三浦市、山北町
- ・厚木市、綾瀬市、松田町、大井町、寒川町 等

※令和7年2月末時点



(2) 医療機関

子どもの診断や支援に関わってる県内の代表的な病院へ訪問をしている。

【訪問先】

- ・小田原市立病院、県立こども医療センター
- ・横浜市立大学付属病院、北里大学病院
- ・東海大学病院

他、中核機能事業の周知に当たり、18医療機関(産院・小児科医を有する病院等)を訪問

(3) ろう学校

各学校の教職員の異動もあるため、新年度の挨拶、情報交換を行っている。

[訪問実績]

- ・県立平塚ろう学校
- ・横須賀市立ろう学校
- ・県立相模原中央特別支援学校

◇訪問したろう学校が家族教室を見学し、周知に協力してもらっている。

◇平塚ろう学校の教諭に家族教室の講師を担当してもらった。

3 家族支援の実施

保護者に対する相談、補聴器等の情報提供、
家族教室による支援を行う。

(1) 相談支援

(2) 家族教室

(1) 相談支援

聴覚障がい児の家族を対象とした療育や日常生活等の相談、補聴器を活用できる社会資源等の情報提供や他の支援機関への繋ぎ等を行っている。

【実績】

相談件数(延べ):223件

※令和7年2月末時点



(2) 家族教室

聴覚障がい児や家族同士が交流する場として家族教室を開催している。今年度は、毎月2回程度(おしゃべり広場等を含む)、実施している。

- 第7回 7月13日(土) テーマ:「タイダイ染め体験を楽しもう!!」
会場:聴覚障害者福祉センター 4家族14名(聴覚障がい児5名)参加
- 第13回 8月21日(水) テーマ:「きこえのはなし」先生に何でも聞いてみよう
会場:おだわら市民交流センターUMECO 4家族10名(聴覚障がい児3名)参加
- 第21回 11月30日(土) テーマ:親子で絵本を読もう!
会場:南足柄市女性センター 6家族16名(聴覚障がい児4名)参加

※手話を知りたい保護者に「しゅわまる」を紹介している。

家族教室参加者の声①

- きこえる、きこえないに関わらず、子育ての話が聞けて良かった。同じ男の子を持つ親として、年頃の中学生のこどもの姿が想像できた。
- 講師の方が明るく、やわらかい雰囲気気で、緊張せずに参加できた。また、お願いしたいと思う。
- 少人数だったので、参加家族同士、話もできて連絡先も交換できた。知り合いができて心強い。

家族教室参加者の声②

- みなさんに、補聴器のメーカーや使いやすいところなど聞けて良かったです。
- 難聴体験も初めてでしたが、とても貴重な体験でした。これから接し方に気をつけたいと思います。
- 他の同年代のお子さん、親ごさんと交流できて良かったです。

4 巡回相談の実施

地域の児童発達支援センター、保育所等を巡回し、職員に対して支援を行う。

(1) 児童発達支援センター

(2) 保育所、幼稚園



(1) 児童発達支援センター

18か所の児童発達支援センターの巡回を行った。

※聴覚障がい児が通園している児童発達支援センターはそれほど多くないが、聴覚障害者福祉センターとのネットワークができつつある。



(2) 保育所、幼稚園

保育所等からの要望で巡回相談を実施し、聴覚障がい児支援のコミュニケーション支援や保護者の気持ちの受け止めなどについて必要な相談支援を行っている。

[訪問実績]

18施設(藤沢市、鎌倉市、茅ヶ崎市、大和市、寒川町、座間市他)

※令和6年2月末時点

巡回支援の例①

- ホワイボートのより良い活用のために、文字を書いているときは話さず、書き終わって正面を向いてから話した方がよい。
- また、作業中の会話なども分かるようにキーワードだけでも書くことなどの工夫を加えてほしい。



巡回支援の例②

- ○○君は友達の輪を見ていることもあったので、会話に入りたい気持ちはあるのかもしれない。もし先生がそのような場面に気づいたときは、「□□の話なんだね」と何の話題なのかを示した方がよい。
- また、「○○君は○○なんだね」などと内容を繰り返したり、「○○君は？」と話を振ったりすると、会話の内容が分かったり、会話に入りやすくなることがある。

5 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施

乳幼児が通う施設（保育所、幼稚園、児童発達支援センター等）の職員を対象として、聴覚障がい乳幼児の早期発見・療育の必要性、接し方等に関する研修会を実施する。年度内に5回実施。

- 第1回：6月26日 参集・オンライン併用
会場：聴覚障害者福祉センター
講演「聴覚障がいの基礎知識」
講師：渡邊 恵氏（東京都立大塚ろう学校早期相談指導員）
参加者：37名（参集4名・オンライン33名）



5 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施

●第2回:8月7日 参集 ※難聴児が在籍する施設向けの研修

会場:聴覚障害者福祉センター

講演「きこえない・きこえにくい子が安心して過ごせるように
～難聴体験を通して考える～」

講師:菅原 仙子氏(都立ろう学校早期教育相談指導員)

参加者:14名

●第3回:10月30日 参集・オンライン併用

会場:聴覚障害者福祉センター

講演「きこえにくい子を育てる保護者としての思い～より良い園生活のために～」

講師:可児 翔子氏(聴覚障がい児の保護者)

参加者:13名(参集2名・オンライン11名)

5 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施

●第4回:12月18日 オンライン

会場:聴覚障害者福祉センター

講演「きこえない(ろう)当事者として伝えたいこと ～乳幼児期に必要な
コミュニケーション支援とは～」

講師:山田 茉侑 氏 (テキサスろう学校 乳幼児クラス担当)

参加者:18名

●第5回:2月26日 参集・オンライン併用

会場:聴覚障害者福祉センター

講演「聴こえない・聴こえにくい子どもの育て方」

講師:南村 洋子 氏 (全国早期支援研究協議会会長、元東京都立大塚ろう学校)

参加者:17名(参集3名・オンライン14名)

研修受講者の声①

- 園での具体的な配慮も教えていただいて、周りの対応や保育者のフォローの仕方も、このようにすればよいのかと知る事ができました。
- また、体験(難聴)もできた事で、今お預かりしている子の困り感を想像できるようになった気がする。
その子の事をたくさん考えて、日々保育していきたい。



研修受講者の声②

- 聴こえにくさや補聴器についての基本的な知識、具体的なケースから対応の仕方を知れたことが良かったです。



6 今年度の取組のまとめ

(1) 関係機関との連携

- 30市町、3ろう学校に訪問し、情報交換を行い、顔の見える関係を構築した。
- 中核機能事業の周知に当たり、新たなリーフレットを作成し、県医師会の協力を得ながら、産院・小児科医を有する18の医療機関に訪問し、医療機関との関わりを拡大した。

6 今年度の取組のまとめ

(2) 家族支援①

- 日常生活の相談に対応するとともに、支援機関への繋ぎ等を行った。
- 家族教室を毎月2回程度開催し、先輩保護者や当事者からの意見を聞いて参考になったとの感想が多い。

※手話を知りたい保護者に「しゅわまる」を紹介した。

6 今年度の取組のまとめ

(2) 家族支援②

- 「おしゃべり広場」を開催し、同じ悩みを持つ家族同士が情報交換を行った。
- 「つたえるつたわる楽しいやり取り」を開催し、より個別に家族支援をすることで、コミュニケーションへの意欲の向上を促した。

※手話を知りたい保護者に「しゅわまる」を紹介した。

6 今年度の取組のまとめ

(3) 巡回支援

- 児童発達支援センター等18施設、保育所等19施設に巡回支援をした。
- 具体的なコミュニケーションの工夫が聞けてよかったとの感想が多い。
- 保育所4施設に継続的に巡回し、状況に応じて必要な支援を行った。

6 今年度の取組のまとめ

(4) 聴覚障害児の支援方法に係る研修

- 5回開催し、聴力に関わらず、マークや写真、表情豊かに伝えること、後ろから話しかけない等、説得力のある説明との感想が寄せられた。
- 難聴児が在籍する施設向けの研修を行い、具体的なケースから対応の仕方を知ることができたとの意見が多かった。

7 来年度の取組の方向性

令和7年度も引き続き本格実施に取り組む。

(1) 関係機関との連携

- 引き続き、市町村、医療機関、ろう学校との連携を図る。
- 作成したリーフレットを関係機関に配布・訪問し周知及び情報交換をする。

7 来年度の取組の方向性

(2) 家族支援

- 家族教室を実施した後に、個々の家族の相談に対応するため、引き続き、個別相談の時間を設ける。
- 同じ悩みを持つ保護者同士が気軽に話せるよう、引き続き「おしゃべり広場」を開催する。
- 家族教室の参加者をより増やすために、SNSを活用した周知に一層、力を入れる。

7 来年度の取組の方向性

(3) 巡回支援

- 引き続き、希望する施設に巡回支援を実施する。
- 継続した支援が必要な児童がいる場合は、定期的に支援を行う。

7 来年度の取組の方向性

(4) 聴覚障害児の支援方法に係る研修

- 引き続き、早期発見・療育の必要性、接し方等に関する研修を実施する。
- 難聴児が在籍する施設の職員向け研修会では、より実際の場面で役立つよう、様々な状況を想定した事例を取り上げる。